

授業科目	音声学				
担当者	松井 理直				
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	2 年	総単位数	2 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

音声学・音韻論・言語学・音響学の知識を統合し、ことばについての理解を深めます。

■ 到達目標

1年生の時に勉強した音声学・音韻論・言語学・音響学の知識を統合し、言語障害・構音障害・聴覚障害を理解するための基礎的知識の完成を目指します。

■ 授業計画

- 第1回 記号としてのことばの復習
- 第2回 音声学の復習：発音記号の注意点
- 第3回 音声学の復習：発声および調音位置について
- 第4回 音声学の復習：調音方法について
- 第5回 音響学の復習：音源フィルタ理論と共鳴
- 第6回 母音の調音と音響学
- 第7回 接近音の調音と音響学
- 第8回 歯擦音の調音と音響学
- 第9回 ハ行子音の調音と音響学
- 第10回 破裂音の発声と音響学
- 第11回 破裂音の調音位置と音響学
- 第12回 日本語の無声化と音響学
- 第13回 モーラ・音節と音響学
- 第14回 アクセントとイントネーションの復習
- 第15回 日本語の音調と音響学
- 第16回 音声知覚様式：連続的知覚・範疇的知覚・聴覚バッファ
- 第17回 音声学と音韻論
- 第18回 日本語音韻論と形態論
- 第19回 文字・語種に関する復習
- 第20回 形態素に関する復習
- 第21回 動詞後続形態素とその意味
- 第22回 語用論の基礎
- 第23回 日本語の語用論
- 第24回 社会言語学の基礎
- 第25回 音声学・言語学における専門用語の詳細
- 第26回 日本語音声学・日本語言語学の全体像
- 第27回 国家試験問題の解説：音声学
- 第28回 国家試験問題の解説：言語学
- 第29回 国家試験問題の解説：音響学
- 第30回 音声学・言語学・音響学のまとめ

■ 評価方法

学期末のテストによって評価を行う。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習時間は2時間程度。復習時間は個人の理解度によるが、1時間程度。また、初回の授業までに、1年生で学んだ「言語学」「構音障害」の内容をよく復習しておいてください。

■ 教科書

書名：言語聴覚士のための基礎知識「音声学・言語学」第2版

著者名：今泉敏（編）

出版社：医学書院

■ 参考図書

書名：日本語音声学入門

著者名：斎藤純男

出版社：三省堂

■ 留意事項

質問などは大歓迎です。授業中に分からないことがあれば、必ずその場で質問をするようにしてください。

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

初回の授業までに、1年生で学んだ「言語学」「構音障害」の内容をよく復習しておいてください。また6月中旬までに、言語聴覚士国家試験の過去問題をなるべくたくさん解いておいてください。